

## 答辞

教室で交わす挨拶。廊下を駆ける足音。友達との代わり映えしない話。大声を出し、笑い、時には泣いた。一日が終われば、最後に、今日みたいな明日があると信じ切って、「またね」とさよならした。この喧噪けんそうが当たり前前だと思っていたのに、もうそれが、当たり前前ではなくなる。春の日差しのような優しく、柔らかかった特別な日々を後にして、今日、私たちは小泉中学校を旅立ちます。

入学式。希望と不安に満ちた私たちを迎えたのは、先輩方の力強い合唱でした。「これが小泉中の合唱」。中学生としての誇りや団結した想いが伝わってくる歌声を聞いて、憧れを抱きました。

二年生になり、市の音楽祭、合唱祭に向けての取組から、合唱への意識が変化し始めました。憧れを現実にした、その気持ちが大きくなり、練習にも熱が入りました。

た。合唱交流をして他クラスの良さを自分たちの合唱に  
どんどん取り入れようとする貪欲さが、成長を後押しし  
てくれたのです。良さを認め、高め合い、クラスらしさ  
を表現する小泉中の合唱文化に触れる喜びを私たちは知  
りました。

そして、小泉中のキャラクター「いずみん」が登場。  
掃除を小泉中の文化にしようとする先輩達の背中を必死  
で追いかけてきました。しかし、掃除を文化にすることは、  
合唱を文化にすることよりも遥かに難しいものでした。

だって、掃除は自分との戦いだから。まだまだ自分自身  
に甘く、集団に対しても甘かった私たちは、キャンペー  
ン中はできても継続ができなかつたのです。そんな私た  
ちの手本として進むべき方向を示して下さいなのは、や  
はり先輩でした。どんな困難なことでも、やってみなけ  
れば何も変わらないのだと。苦しくても、辛くても、努  
力し続けることが大切なのだ。そして、どんなに難し  
くとも仲間を信じて共に歩み続けることがなによりも楽  
しいのだと。だから、私たちは決意しました。先輩方が

創り上げた文化を小泉中の伝統にすると。

体育祭。一年生の時から先輩達が挑む姿を見てきた多人多脚。難しいことは分かっていたけれど、実際にやってみると案の定ゴールまでたどり着けませんでした。バンドはすぐ取れる、足並みがそろわない、転んですりむいた膝はじくじくと痛んだ。でも不思議と、もう止めたいだなんて思わなかった。次こそは、次こそは！と何度も挑戦し、何度も失敗しました。だからこそ、初めて最後まで走り切れたとき、嬉しさで胸が一杯になりました。走り切れれば、次はタイムを一秒でも縮めようと、努力を重ねました。たった一人では味わえない楽しさがそこにあることを誰もが分かっていたからこそ、できたのだと思います。組んだ肩の強さは、絆の強さ。クラスの団結力が一気に高まりました。

その団結力を更に発揮したのが合唱祭。どのクラスも最優秀賞を取りたいと、毎日練習しました。声量はもちろん、強弱、発音、声の質など、上達するために様々な

ことを意識しました。けれど、一番大切なのは合唱を聴く全ての人の心を奪い、引き込むような歌を歌いたい。自分たちのクラスにしか表現できない合唱をしたいという想いです。その心が一つになったとき、どんな賞にも勝る合唱ができあがるのです。最優秀賞をとれるのは一クラスのみ。悔しくて涙した仲間もたくさんいる中で、「うまくできなくてもみんなとなら楽しく歌えた。」「みんながいたから本気で歌えた。」そんな言葉があちこちで聞こえました。どんな気持ちも言葉にする。友を信じる。

想いを乗せて紡ぐ歌は、まるで平和な大地のような大きく安定した伝統を築いた証だ。そう、強く確信しました。

そして、掃除。「全員で取り組む」ことにこだわって、剣をほうきに、盾を雑巾にして挑んだ「いずみんクエスト」。汚れというモンスターを駆逐すべく戦い抜きました。去年の甘さを払拭し、本気で取り組む格好良さを後輩に見せるために。にぎやかな昼休みとは一転して、静まりかえる校舎。聞こえてくるのは、ほうきで掃く音や机を動かす音だけ。一生懸命頑張っている仲間を見て、

自分も頑張ろうと思う、その連鎖が学年を超えて全校へ繋がろうとしています。

小泉中の伝統をつくるという私たちの決意は、支えなしではやり切ることはできませんでした。合唱や掃除に限ったことではありません。どんな時でも助け合い、励まし合い、お互いに支え合いながら成長してきました。仲間の存在が大きすぎるがゆえに、その存在が自分に重くのしかかってきたこともありました。責任を感じたり、不安になったりすることも、受け入れられなくて、ぶつかり合うことだって…。それでも私たちは、同じ方向を向きながら一緒に進んできたのです。

そんな仲間とは、今日でお別れ。私たちは新たな決意をしなければなりません。いつも隣にいた友がいなくても、この先どんな壁が待ち構えているとも。これまで乗り越えてきた自信と誇りを胸に秘め、未来への一歩を踏み出すという決意を。

卒業生起立      回れ右

「決意」

指揮・奥村

和奏

ピアノ・坂崎

友希乃

今私たちが堂々と胸を張って立っていられるのも、仲間だけでなく多くの人の支えがあり、進むべき道を示してくださったからです。一・二年生のみんな。直接伝えられないのが残念だけれど、行事などの様々な活動を一緒に盛り上げ、高めてくれてありがとう。最高の思い出になりました。そして、先生方。授業だけでなく、部活動や色々な取組の中で、共に悩み喜び涙してくださいました。先生方の心の支えがあってこそこの私たちです。ありがとうございました。最後に、家族のみんな。今まで数え切れないほど心配と迷惑をかけてきました。素直になれなくて、むきになったり、反抗したりしたこともあったと思います。でも、いつも優しい愛情で包んでくれました。その優しさに何度も救われました。今まで私たちを大切に育ててくれてありがとう。そんな家族が大好きです。

時に間違った方向へ進みそうになったこともあったけ

れど、誰かが手を引いて止めてくれた。家族、仲間、先生：たくさんの人と繋がって、今日がある。みんなで歩んできた道が、確かに、ここに。ありったけの思いを込めて歌います。最後の合唱を聞いてください。

「道」 指揮…山岸 つぼみ ピアノ…今井 宥芳

私たちは今日、小泉中学校を卒業します。しかしこの道は未来へとまだまだ続いています。別々の方向へ進む私たちの道が、いつかまた交わる時、一回りも二回りも成長した互いであることを祈って、新たな一歩を踏み出します。

卒業生代表

櫻田 愛実

市原 佳朋